

海老根紙漉きの話

海老根の紙漉きじゃない、江戸時代から始まったんだと。

その頃の海老根の石高はない、八百石で、高倉は千石だったんだと。

耕す土地も狭めがら、こんでは何か副業でもするしかねえてない、長百姓の善右衛門さんつう人がない、
「んじゃあ、紙漉きやったら なじよだべ。」って思いついたなど。

ここはない、原料のコウゾはあっぺし、わき水もきれいだべし。紙漉きすんには もってこいだったんだと。

それで、美濃の国つうがら 今の岐阜県からない、清右衛門さんのつう方（技術者）よばって、美濃版つう お習字紙よりひと回り大っきな版での紙漉きを教えてもらったのが、明暦四年の十月つうがら、今から三百六十年以上も前の話だど。

江戸時代の末がら明治さかげで、海老根村の戸数は、八十戸だったんだげんちょも、紙漉きの舟は百もあったんだと。

あつ時ない、海老根村の富蔵っていう人が、静岡さ働きさ行って、大っきな版での紙漉きを覚えてきたんだと。

そおして村のみんなさ教たもんだがら、それはない、大っきな版で紙を漉ぐようになったんだわない。

原料のコウゾの木は、まず村内で切って、それ足んにえどごは、近くの村さ行って、わーがで切って 三尺たばにしてお金を出して買ってきたんだと。

紙の種類つうは、まずは障子紙だばい。それがら、唐傘紙と茶袋紙で、郡山だの三春だの、須賀川、いわきあたりさ売りに行ったもんだと。

んでもない、紙漉きっちゃ 寒いときの仕事だばい。なかなか大変で、大正十三年ごろまでは 盛んにやってだげんちょも、十軒やめ、二十軒やめして、とうとう昭和六十三年には。最後の一軒も やめっちゃまってない。

んでも、「ご先祖さま達がやってきたごどだから、これは守っていがんなんねえ」ってない、保存会が立ち上がって十年ぶりに復活したんだわない。

カマドこしえて、道具も持ち寄って、つなぎのトロロアオイも畑さつぐってだがんない。元の紙漉きするまで二年間も かかったんだわない。

紙漉きっちゃ コウゾだけではできねえ。トロロアオイの根っこのぬめりが紙を浮き上がらせて 繊維を均等にしてくれから、これがまだ大事なんだない。

さて、海老根の和紙と他の和紙の違いっては何だがわがつかい。

それはない、他の和紙は、最初は白ぐって お天道様にあだっとだんだん黄ばんでくっげんちょも、海老根の和紙はない、最初、黄ばんでで だんだん白くなから 生きでる紙で生紙って昔から ゆわっちんだぞい。

今はない、海老根小学校と宮城小学校の六年生が、自分の卒業証書として 紙漉いてっばい。そして、九月の中ごろには、毎年、保存会が中心となって、秋螢つう灯ろうまつりもやってんだんわない。

この海老根和紙はない、今では福島県指定の伝統工芸品で 郡山の宝だがんない。これからもみんなして ずーっと守ってがんなんねえない。

おしまい。聞いてくんち ありがとない。